

なるほどキーワード

《食品ロス》

環境

もったいない！食べられるのに捨てられる



売れ残りや期限切れの食品、食べ残しなど本来食べられたはずの、いわゆる「食品ロス」が日本では500万トン～800万トンにもなります。これを日本人1人あたりに換算すると、毎日おにぎり約1～2個分を捨てていることとなります。

家庭においても食品ロス全体の約半数の200万トン～400万トンが発生しています。私たちは多くの食べ物を輸入しながら、大量に捨てているのです。家庭で食品を食べずに捨てた理由として多いのは、「鮮度の低下や腐敗」「消費期限・賞味期限が過ぎた」などが挙げられています。大切な食べ物を無駄なく消費し、「食品ロス」を減らして環境面や家計面にとってもプラスになるような生活を心がけましょう。



募集中

●食品ロス削減の工夫

- ① 食材を「買いすぎず」「使い切る」「食べきる」在庫を調べて買い物に行く。安いからといって買いすぎない。
- ② 残った食材は別の料理に活用食べられる量だけ作る。
- ③ 「消費期限」と「賞味期限」の違いを理解消費期限は「食べても安全な期限」のためそれを過ぎたものは食べないほうが安全。賞味期限は長期保存ができる食品に表示されている「おいしく食べられる期限」であり、それを過ぎてもすぐに食べられなくなるわけではありません。

キャンドルナイトの会では食品ロスをなくすために、冷蔵庫で残ってしまう野菜を使ったレシピを募集しています。応募用紙は支援センター掲示板にあります。締め切り1月31日（土）

東日本大震災孤児支援に協力

栄町の活動団体「のら市の会」「のら里くら里健康ウォーキングの会」「ポレ・ポレ」「住民活動支援センターもったいない陶器市」が福島市渡利の「NPO 花見山を守る会」に千葉県産の食品や日用品を送りました。お菓子は仮設住宅に住む人たちが集まる「サロンさくら」のお茶菓子に、日用品はバザーの売り上げで震災孤児支援のために使われます。まだまだ復興が進まないなか、福島の人のことを忘れないで、見守り続けたいと思います。

12月に送ったもち米のお礼状が花見山を守る会より届きました。支援センター掲示板に掲示中！

ちば県民活動 PR 月間 賛同行事

NPO・ボランティアフェアさかえ開催

千葉県では県民のボランティア活動への参加につながるために「ちば県民活動 PR 月間」を設け、期間中(11月23日～12月23日)様々なイベントを開催しました。栄町は賛同行事としてフェアを開催しました。250名の方がアンケートに答え、チーバくんグッズを配布しました。アンケートの結果から NPO・ボランティアを知っている人は96%、ちょっとボランティアがあればやりたい人は61%でした。

支援センターにボランティア募集を掲示しています。ぜひお立ち寄りください。



アンケート記入中